ドキュメンタリー映画『百姓の百の声』真庭上映会　　柴田昌平監督作品(『千年の一滴 だし しょうゆ』など)

2023年2月23日(木・祝)

高校生以下無料/前売 1,000円（当日1,200円）

※お問合わせ：TEL 090-7997-5167(やなる)

＜上映時間＞ ①13：30　②17：30

✉ maniwa.100sho@gmail.com

前売り券予約当日払い→

勝山文化センター ポンテホール（真庭市勝山319）主催:「百姓の百の声」真庭実行委員会

百姓の百の声

百姓は、カッコイイ

田んぼで、畑で、農家の人たちが
何と格闘しているのか。
ビニールハウスの中で
何を考えているのか。
百姓たちは
小手先では解決しない様々な矛盾を
独自の工夫で克服していく。

（左から）
夫婦でキュウリ農家を志す女性
地域で鶏糞を使った循環型農業を営む秋川牧園
シャインマスカットを栽培する若き農家深谷聡さん
土着天敵を使い殺虫剤ほぼゼロでミニトマトを栽培する清友健二さん

観終わった後、なぜかわからないが泣きそうになった。人々の昔からの営みの美しさ、はかなさ、自然の偉大さ、厳しさ、美しさ。なんかぐちゃぐちゃになって心に届いてきた。（40代男性　八百屋）

日本人として失われつつある特性も思い出させてくれる映画でした。技術をオープンにすることで、その地域、その国が活性化する、それを日本人はよしとして日本も発展してきた。農業はその技術の原点の産業。大切にしていきたい分野だと強く思いました。（40代女性　観光業）

日本全国で楽しく農業をやっている人がたくさんいることに心強く感じた。（60代男性　公務員）

様々な農家さんの様々な想いがあっておいしい野菜があると感じることができました。農家さんの声が沢山私の中に響いて、農家さんの生き方は農業をしていなくても、今を生きる人たちに届けたい言葉ばかりでした。（20代女性　会社員）

～2022.11月真庭試写会参加者様ご感想より～

映画の中で訛った岡山弁を喋るおじいちゃん、
このおじいちゃんがわしか・・・、もうすぐ五十四歳、
どうやらこれが現実なのか、受け入れなければならない。

百姓とはどんな人　想像してほしい

明治生まれの祖父は、朝早くから畦の草を刈り集めては
牛の世話をしていた。
父も、朝早くから夜遅くまで働いていた。

そして今、私が働いてばかりのような気がする。
今年、超巨大台風が真庭をめがけて
来ているような気がした。
幸い大したことはなかったが、私が何十年かけた
農業資産が一瞬でなくなるかもしれないという恐怖感。
働いても働いても安心できない。
いや、働いてないと安心できないのかもしれない。

名もなき多数の農業に従事してきた人びと。
長き日本の歴史に無数の百姓が産まれては消え、
また産まれる。
無数の百姓により大量の食糧が生産され、
大量の食糧をつくろうとする意志が、
新しい技術を開発し、蓄積され、歴史をつくってきた。

百姓はいろいろなことができる人だ。
勉強しなければいけないし、
いろいろできるようになることが百姓の楽しみだ。
どんな時代が来ても、どんな気象が来ても、
へばりついて生きていくのが、百姓だ。
しのいでしのいで生きていくのが、百姓だ。

一所懸命生きている人を見るのは
元気が出てくる。
そんな百姓の生き様を観てほしい。

清友健二（清友園芸・岡山県真庭市）

「百姓の百の声」 監督： 柴田昌平　制作・著作 ： プロダクション・エイシア　制作協力 ： 農文協（一般社団法人 農山漁村文化協会）
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（映画創造活動支援事業）・独立行政法人日本芸術文化振興会 2022 年
日本 ／ カラー ／ 130 分 ／ Blu-ray　撮影 配給： プロダクション・エイシア

「百姓の百の声」公式サイト